

令和6年度 第1回 荒尾市地域づくり推進委員会 議事要旨

日 時：令和6年9月27日（金） 午前10時～正午

場 所：荒尾市役所 24号会議室

出席者：（荒尾市地域づくり推進委員会委員）

熊本県立大学 教授 澤田 道夫 会長

荒尾市社会福祉協議会 事務局長 前田 偉知雄 副会長

女性ネットワーク荒尾 委員 弥山 照代 委員

荒尾市小中学校校長会 荒尾第三中学校校長 小柳 弘志 委員

荒尾市地域学校協働本部 地域学校協働活動推進員 田添 美奈子 委員

荒尾市自主防災組織連絡協議会 会長 宮崎 司 委員

荒尾市地区協議会会長会 会長 河部 啓宣 委員

市民公募 田中 加代子 委員

事務局：市民環境部：片山部長

くらしいきいき課：田中課長、渡邊課長補佐、梅井参事、岡元

1. 開会

事務局（田中課長）より開会を宣言。

2. （新）委員紹介

今年度の人事異動により、「荒尾市社会福祉協議会 事務局長 前田偉知雄 氏」と「荒尾市校長会 荒尾第三中学校校長 小柳弘志 氏」が新たに委員に就任。また、副会長には前任の塚本副会長の後任として、社会福祉協議会の前田氏が就任することが委員により承認を受けた。

3. 副市長挨拶

日頃より市政の発展にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

本市は、平成24年度に「荒尾市協働の地域づくり推進条例」を制定し、協働のまちづくりの推進に取り組んでいるところである。ここ数年はコロナ禍により、本市の地域活動においては、自粛や規模の縮小などを余儀なくされたが、昨年度、コロナの感染症法上の位置付けが5類に変わり、ようやく以前の活動を取り戻しつつある。引き続き、くらしいきいき課を中心に協働のまちづくりを推進

して参りたい。

昨年度、市内4カ所で「住民懇談会」を開催し、各会場とも共通して、地域コミュニティの維持、後継者不足といった課題が挙がった。この点については、市としても着手できるところは取り組んでいき、引き続き、力を入れていきたい。

本日は皆様から、様々な意見や助言をいただき、地域の活性化に繋げていきたいと思う。そのため、率直なご意見を賜り、今後とも一層のご支援、ご協力をお願いしていきたい。

4. 議事

荒尾市地域づくり推進委員会規則第5条1項の規定により、澤田会長が議事の進行を行う。

(1) 協働の地域づくり活動状況

事務局（岡元）より、「資料2」協働の地域づくり活動状況の説明を行った。

【主な意見】

- ・前田副会長：自治会の加入率状況は、全国的に減少傾向にあるのか。
⇒事務局（岡元）：本市に限らず全国の自治体で大きな課題としてある。
⇒澤田会長：全国的に地域団体等の加入状況は年々減ってきており、熊本県内全体でも80%台となっている。また、コロナ禍でさらに加速している。
- ・小柳委員：令和元年度に事業回数が250近くまで伸びているのは、地区担当職員制度の発足が影響しているのか。
⇒事務局（岡元）：定例的に開催している「花壇の整備」や「防犯パトロール」等の活動が増えたことが一つの要因かと思われる。
- ・澤田会長：自治会長の任期や平均在任期間はどのくらいか。
⇒河部委員：最近では地域によっては役職が1年ごとに交代するところもある。また、地域によっては副会長を担当した後、数年後に交代するケースもある。万田地区では数十年間役職を務めている方が3～4人いるが、交代が頻繁な地区が増えており、在任期間が短くなっている。

- ・澤田会長：後継者の育成を自治会長や地区協議会会長はどのようにお考えか。
⇒河部委員：PTA会長を務めた後、地区協議会に参加し、30年近く地域で活動している。地域の活動は中心地では移住者やアパート住民が増えており、地域の事業に参加しない人が多いため、後継者の育成は難しい状況。

(2) 令和6年度の取組みについて

事務局（渡邊課長補佐）より「資料3 令和6年度の取組みについて」の説明を行った。

【主な意見】

- ・弥山委員：一小校区元気づくり委員会では、市の職員の方々が活動に参加し、指導や依頼事への迅速な対応をしてくれる。また、地域に住んでいる市の職員の方も休みの日にイベントの手伝いに来ていただき、本当に助かっている。
- ・宮崎委員：地区協議会の構成は地区ごとに差があり、他の地区に自主防災組織や防災士会の話をしても知らない人が多く、協力が得られない状況である。そのため、市に実態を把握してもらい、地区担当職員には他の地区の状況を報告してもらうようお願いしたい。
- ・河部委員：各地区の組織体制や加入者が異なるため、統一を図ることは困難な状況。防災組織の設立も地区ごとに異なり、地区協議会の関与も異なる。
地区協議会は予算が限られ、事業を行う団体ではなく、地区内の連携を目指すことが主な目的である。
また、自治会長会議がなく、横の連携が取れていない。設立すれば横の連携が生まれ、他の地区でも同様の組織ができる可能性がある。また、区長や公民館館長、行政協力員の役割を担っている方もいるが、地区によってはそれぞれの役割を別々の人が担っており、絶対的な横の連携が不足している。
- ・河部委員：地区担当職員は常に参加してくれるが、連携が不足している。また、各地区には市職員が30名程住んでいるが、地域行事への参加はほとんどない。少なくとも、その方々を把握していただきたい。

- ・宮崎委員：市役所OBが荒尾市や地域のための意識が薄く、定年退職後も地域活動に参加してくれない。現役職員やOBを含めて、もっと積極的に参加してもらいたいと思っている。また、地区担当職員には他の地区の状況を報告してもらい、統一した組織体制を考えてもらいたい。

⇒事務局（片山部長）：OBについては、退職後に地域で頑張ってもらいたいと市長からお願いしているが、難しい面もある。また、最近是他市から通う職員も増えている。地域活動への参加は行政が強制することはできないが、職員に地元の地域活動に参加して頑張ってもらいたいようお願いしていきたい。

⇒事務局（田中課長）：「地区協議会運営ガイドライン」は地区協議会の組織体制が統一できていないという声があり、作成した経緯がある。各地区で組織体制にバラつきがみられるため、話をしていきながら、取り組んでいきたい。

- ・宮崎委員：最近は防災士会の設立により、統一した組織体制づくりが見られる。一方、自主防災組織は現場をよく分からない区長等が支部長や役員を務めているケースが多く、活動が停滞している。そのため、防災活動に関わっている方々で組織を作ることで、より効果的な活動ができるのではないかと考える。

- ・田添委員：現在、所属している地区には公民館などの集まる場がない。しかし、隣の地区から防災活動に参加できないかと声をかけていただき、非常に感謝している。そのため、周囲の地区がもっと積極的に声をかければ、地域活動への参加者が増える可能性があると思う。

- ・澤田会長：周囲の地区がどういった状況なのか、普段は知らないと思うが、なぜ分かったのかを教えていただきたい。

⇒田添委員：今の地区は、公民館もなく、本当に何もないという声が隣の地区に届いたことで、誘っていただいたのかなと思う。

- ・澤田会長：公民館のような集まる場所は重要になるのか。

⇒河部委員：いきいきサロンのような高齢者が集まる事業をする場合、場所がないとできない。

- ・前田副会長：社会福祉協議会は地域の福祉充実と地域づくりに関与している。地域活動の人手不足が課題となっているが、職員は地域ネットワークを持ち、サロンやささえあい活動を通じて相談に乗っている。令和4年度からは福祉活動の助成金制度を設けている。赤い羽根共同募金の基金から支援を行っており、特にeスポーツや芋掘り、夏祭りなどの活動に助成している。また、備品の貸し出しも行っており、様々な場面で地域に関わりたいと考えている。

(3) 意見交換

各委員より、地域の活動状況や課題に関する意見や助言が述べられた。

【主な意見】

- ・田中委員：私は30年以上にわたり八幡地区協議会の役員を務めている。今日、話を聞いて、改めて八幡地区協議会の頑張りを感じた。私たちは人々が集まるためには楽しい雰囲気を作ることが大切だと考えている。

八幡地区協議会は区長と5つの部会で構成され、役員会では様々な意見を聞きながら取り組んでいる。しかし、後継者の課題や地区担当職員の受け入れなど、課題もあり、活動を引き継ぐためにも努力している。また、区長や防災士との良好な関係を築き、地域のイベントや子ども会の事業にも協力している。今後は情報交換会を通じて地域の活性化を図っていききたいと思う。

⇒澤田会長：長く活動をしていると、周囲から頼られすぎてしまい、急にケガや病気になった場合、どう対応するかという話が出てくる。このような場面では、地区担当職員などと相談しながら進めることが重要だと考える。

- ・河部委員：PTAについて校長会ではどのように考えているのか。

⇒小柳委員：PTAの組織は変化している状況である。荒尾市内の小中学校のうち市・県のPTA連合会から5校が脱退している。荒尾第三中学校はまだ加入しているが、中央、緑ヶ丘、平井の3校は今年度脱退している。また、PTAという組織の名称を変えて、保護者の自主的な組織としている小学校もあるが、子どもたちを地域で育てるという考え方は共通している。

三中のPTA連絡協議会では、他の学校がなくなった「夏祭り」や「球技大会」を開催している。また、PTA会長は横の連携や繋がり的重要性を強調し、各小学校に市PTA連合への再加入を呼びかけている。学校では子ど

もたちを育てるために地域の力が必要であり、協力をお願いしている。

- ・ 澤田会長：市や県のPTA連合会から脱退することは何か意味があるのか。
⇒小柳委員：市・県のPTA連合会への会費に対する対価に疑問を持つ声や仕事の調整をしながら連合の集まりに参加する必要があったことで不満があった。そのため、自分たちのPTA活動を通じて子どもたちのために何かをした方が効果的ではないかとの考えがある。また、岡山県が全国のPTA連合から脱退したという情報や他の市町村のPTAの状況がネット情報で入り、脱退しても特に問題はなかったという事例が広まり、影響が広がっている。

- ・ 小柳委員：地区協議会には様々な行事が執り行われているが、そういった行事の開催は地域の子どもの成長において非常に重要である。緑ヶ丘小学校では毎年「みどりまつり」というイベントが開催され、子どもたちはそれを経験して中学校に進学する。中学生になっても緑ヶ丘小学校出身の子どもたちは、「みどりまつり」の手伝いに参加する。地域の行事を経験することで、それが当たり前のように感じられ、大人になっても地域の活動への関与の必要性を感じる。この取り組みを参考に、中央小学校でも同様のイベントを考えているとのことである。

- ・ 澤田会長：地区協議会にPTAは加入しているのか。
⇒河部委員：地区によって、入っているところと入っていないところがある。

- ・ 澤田会長：子ども会やPTAの廃止は、保護者だけで廃止にしているのか。
⇒河部委員：保護者の価値観の違いで廃止にしているのが大きい。子ども会を廃止にした地域では、子どもたちからまた設立してほしいという声が挙がっている。

万田小学校はPTAという名称を変えて、活動を行っているため、その方々は地区協議会にも入ってもらっている。

- ・小柳委員：現在の学校のボランティア活動は、毎年、参加可能な項目を選んで名前を書いてもらう形式が多い。運動会などでも事前に協力できる方を把握し、当日サポートしてもらっている。このような学校が増えてきている。
- ・田添委員：地域学校協働本部では、子どもたちが自ら発信や立案を行う機会を作りたいとの意見が出ている。学校の調査では、子どもたちの評価項目で郷土愛や地域愛が上位になっており、将来的には地域のことを考える人々が増える可能性がある。
- ・河部委員：子ども会の廃止により、自治会や町内会からの脱退者が増えている。交通安全協会も存続が難しくなっており、警察も困っている。また、自治会・町内会に参加していない人への広報や配布方法についても議論が出ている。特にアパートに住んでいる人々は町内会に参加しない傾向があり、地域行事への参加以前の問題として、今後の対策が必要になる。
- ・事務局（片山部長）：各地区で街灯が設置されているが、地区の区費で電気代を賄い、設置されるので、自治会・町内会に入らない方が増えると、電気代等が賄えなくなり、暗い町になってしまう恐れがあるため、市の方でも考えていく必要がある。
- ・澤田会長：一部の人々は町内会には参加しないが、その恩恵を受けているというフリーライダーの問題が存在し、そのような人々が増えている。この傾向が進むと、子ども会、PTA、自治会・町内会の存在意義が薄れ、地域の力が次第に低下していく可能性がある。
- ・宮崎委員：将来的に地域意識の高い人々が増えるという話が挙がったが、今の子どもたちは荒尾市にいない可能性もある。かつては定年後に地元に戻る人もいたが、今は一度市外に出た人が帰ってくることは難しい状況である。
- ・澤田会長：子どもたちは大学入学後に地域を離れる傾向にある。また、子育て世代の地域づくりへの関心が低いため、中間層にアピールすることが非常に

重要。子育て世代には、子どもの参加を通じて地域活動に参加してもらう考え方が有益かもしれない。

- ・澤田会長：地区担当職員一般職の悩みを他の係長級や課長級の方々が受けとめられているのか。また、3名の連携や横の連携についてお伺いしたい。

⇒事務局（田中課長）：横の連携については、年に1回、全地区の地区担当職員課長級を集めた「地区担当職員連絡会議」を開催し、各地区の状況や取組み等の情報共有を行っている。

また、地区担当職員の3名の連携については、昨年度、担当地区において、何かできることを考えてほしいということで当課から地区担当職員に話を行い、それをきっかけに3名で話し合い等が行われている状況である。

- ・事務局（田中課長）：担当地区を理解するために、まずは様々な事業に参加し、役員と話をするように伝えている。コミュニケーションがなければ何も生まれないので、担当地区の事業にできるだけ参加し、話をしながら地域の課題を見つけ、何かできることを探していただくようお願いしている。

- ・澤田会長：地区担当職員の活動状況や悩みをまとめ、地区協議会会長会や地域づくり推進委員会で共有することで新たな関わり方が生まれる可能性がある。

本日はさまざまな意見が出され、非常に参考になった。特に自治会への加入率の低下や地区協議会の現状について整理し、事務局でも検討する必要がある。

また、市役所職員やOBの地区協議会への参加に関する問題提起や公民館の重要性についての話もあった。さらに、PTAに対するアプローチ方法についての話もあったため、それらについても検討していただければと思う。

5. その他

最後に市民環境部 片山部長より挨拶を行った。

長時間、様々なご意見をいただき、感謝申し上げます。能登半島では災害が起きており、こういう時こそ、地域の繋がり的重要性を感じているところである。

9月議会においても地域コミュニティの弱体化への取組みについて、議会

の方からも要望されている。少子高齢化で役員の担い手不足等、いろんな課題があるが、本日様々なご意見を参考にさせていただきながら、取り組んでいきたい。

6. 閉会

事務局（田中課長）が閉会を宣言。

なお、議事録要旨については、委員の確認を得た上で、荒尾市ホームページに公表することとした。